

大阪YMCA『2010年度年間聖句・年間讃美歌』 公募のご案内

大阪YMCA常議員会では、2010年度年間聖句・讃美歌を会員の皆様より公募いたします。

年間聖句・讃美歌は、大阪YMCAにおける会合に提示され、多くの機会に唱えられます。YMCAに集う人々が、親しみを持って口ずさむことのできるものであることを願っています。

多くの方々からの応募を心よりお待ちしております。

大阪YMCA常議員会
活動推進委員会委員長 藤井 道雄

【応募内容】 YMCAに集う方々にとって親しみを感じる年間聖句・年間讃美歌

【応募締切り】 2月19日(金)

【応募方法】 応募用紙に氏名、所属YMCA、連絡先、応募の聖句・讃美歌の箇所・番号、選んだ理由など必要事項を明記の上、E-mail、電話、FAX、郵送のいずれかで下記まで応募ください。

※応募用紙はホームページよりダウンロードするか、下記までお申し出ください。

【その他】

●過去の年間聖句・讃美歌はホームページで確認いただくか、または電話等でお申し出ください。

●応募に際しましては、大阪青年1ページ上段の大阪YMCAの使命をご参照ください。

●年間聖句・讃美歌は応募された中から常議員会で決定され、2010年会員大会において報告されます。

大阪YMCA統括本部 担当：うちだ たてやま
住所 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL 06(6441)0894
FAX 06(6445)0297
E-mail info@osakaymca.or.jp
HPアドレス http://www.osakaymca.or.jp/

「the」で伝わる『伝統』

国際リレーエッセイ ⑭



～イギリス・ロンドンより～
田中 淳さん

日本で「イングランドサッカー協会」と呼ばれる組織は、こちらでは「the FA」、直訳すれば単に「サッカー協会」となります。また、前回は石川遼選手とタイガーウッズ選手との同組ラウンドで話題となった「全英オープンゴルフ」も、こちらでは「the OPEN」と「英国で開催する」という説明は不要となります。どちらも英国発祥のスポーツだけあって、その伝統が「the」という定冠詞に込められている表現です。

そういった「伝統」がさりげなく守られていることを、こちらでの生活の

あちこちで感じるがあります。日本の「お正月」とこちらの「クリスマス」の比較がその典型だと思います。こちらでは、クリスマス当日は、ほとんどの店が閉まったり公共交通機関が止まったりします。それに対して、日本では、スーパーなどで「初売り」がされるなど、元旦に開いている店が昔に比べて増えました。また、こちらでは「クリスマスカード」が、日本における「年賀状」のようにあります。ただ、最近の日本の傾向として、年賀状をEメールで送ることが多くなって、年賀状の発送枚数が減っているというニュースを耳にしますが、こちらでは依然としてカードそのものを送ることが習慣としてあります。「クリスマス」と「お正月」、単純に同じものとして比較することはできませんが、それぞれの伝統的な「年中行事」に対するとらえ方の違いの一端を感じました。



外国(英国)で暮らして初めて「日本」を見直すことができたような気がします。

◆筆者紹介◆
田中 淳さん
大阪YMCA会員元常議員。公立学校教諭。2007年4月より文部科学省在外教育施設派遣教員としてイギリスのロンドン補習授業校に赴任中。



「あなたにとって 平和とは何ですか？」

大阪YMCA国際専門学校高等課程
表現・コミュニケーション学科

2年生の総合学習の時間に「平和」について調べ、大人の方にインタビューを行いました。これまで総合学習の時間に生徒は自分にとっての平和や平和な世の中とはどんなものかということを考えてきました。「戦争はどうして起こったのか?」「平和な世の中、平和ではない世の中とはどんなものなのか」ということをグループディスカッションしました。生徒は考えたり、話し合いをした結果、「平和な世の中とは?」という問いかけはなかなか答えの出ない難しいものだと感じました。

そこで、思いついたのが、「大人の人に聞いてみたい」と言うことでした。インタビューの方法はよくTVで行っている街頭インタビューのように選択肢を用意し、当てはまる場所にシールを貼っていただくものです。「お時間よろしいでしょうか?2年生の総合学習の時間で…」と丁寧に説明し、インタビューしていました。それから、よりたくさんのお返事を得るため、アンケート用紙を作成し、各学年と保護者に協力をお願いしました。現在は得た回答の分析、生徒自身の思いをパワーポイントにまとめています。インタビューをしながら、平和に対する考えは一人ひとり違うことが分かり、平和を創っていくには自分ができることは何かと自分が考え行動することが必要だと実感していました。これからどんなまとめがでてくるか楽しみです。(公原恵理子・表現・コミュニケーション学科スタッフ)



平和な社会を目指して

いわさか に き
岩坂 二規 (関西学院大学准教授・土佐堀YMCA運営委員)

25年前、アメリカYMCA同盟によるWorld Campプログラムに参加しました。全米8カ所に準備されたキャンプサイトで、30を超える国や地域から集まった高校生100名が美しい大自然の中で寝食を共にし、カヌーを漕ぎ、歌い、平和を祈りました。

1980年代半ば、すでに経済大国と呼ばれるようになり、与えられた豊かさを享受して育った私たち日本の高校生は、世界の現実と自分の立ち位置に気づかされることになりました。ガザから来た青年がパレスチナの連帯を意味する格子縞のスカーフ(ハッタ)を身にまとい、踊り狂っていたキャンプファイヤー、南アフリカの白人青年が歌米のコースからのアパートメント問題についての質問に答えを詰まらせ泣いていたグループ討議、スリランカの青年が祖母から習ったという日本の「赤とんぼ」を歌ってくれた夕景…。その年、アフリカの飢餓救済キャンペーンにおいて歌われた「We Are The World」を口ずさみながら、戦争や対立、不信や不安といった負の構造に対して、地球市民をリードするコースの気づきと行動が求められている時代の空気を、私たちは肌で感じていました。

あれから四半世紀。冷戦崩壊後の世界は不安定さを増し、内在していた負の構造が対立と不安を新たにし、成長の限界が現実となった経済秩序は、地球環境問題への取り組みの要請とは裏腹に資源の奪い合いを招き、格差の固定化と連鎖が変革を促すはずのユースと子どもの将来や希望を抑圧し、生きる力さえ奪おうとしています。

いま、平和を求める私たちの願いと祈りは、一人ひとりの生き方と関係性のあり方の内発的發展に立ち戻りつつあります。インドの指導者ガンジーは、「平和への道はない。平和こそが道なのだ。」と述べました。神(自然)と人との関係性の回復を、学びと気づきのプロセスによって実現させるYMCAの働きは、平和を創り出す「道」そのものでなければならぬと思います。

25年前「We Are The World」を作曲したM. ジャクソンは昨年亡くなりました。その歌詞をユースとともに、世代を超えて歌い継ぎたいと願います。

There's a choice we're making.
We're saving our own lives.
It's true we'll make a better day, just you and me...

南YMCA キリスト教オープンセミナー

『ルワンダの悲劇と和解への道』 講師 佐々木 和之氏

南YMCAでは2009年12月3日に、『ルワンダの悲劇と和解への道—ルワンダの人々から私たちが問われていること—』というテーマで「キリスト教オープンセミナー」を行いました。

講師に、2005年からルワンダで、教派を超えたキリスト教者による非営利組織で地元の教会やモスクと協力して平和と和解のプログラムを展開している佐々木和之さん(日本バプテスト連盟国際ミッションボランティア、ルワンダ平和構築NGO「REACH」職員)を迎え、内戦でかつ

て「被害者」と「加害者」の立場にいた人が同じ地域で和解を目指す取り組みを通して、日本社会での犯罪者と被害者との和解と癒しのプロセスの必要性を提言いただきました。

今後は、現在取り組んでいる家作り(「加害者」が家を壊された「被害者」のためにやっている活動)や次の世代を担う子どもたちの育成などを通して、紛争解決、平和構築を目指したい、またこのことをぜひ多くの人に知ってもらうため支援いただきたいと熱く語られました。教職者や教会



の信徒など48名の参加をいただき、実り多い学びのときを得ることができましたことを感謝して報告いたします。(貝 容子・高等学校スタッフ)

Yes! キャンペーン協力報告

～核兵器廃絶にYes!～

昨年のオバマ米大統領のブラハ宣言、ノーベル平和賞受賞決定と今世界では、核軍縮の機運が高まっています。しかしながら、今もなお、世界では、約3万発の核兵器があり、約1万7500発がボタン1つですぐに使える状態にあります。なんらかのかたちで、これらの核兵器が使用されれば、人類どころか地球自体が壊滅することは、明らかです。

今年5月に開かれるNPT核不拡散条約再検討会議で、*1「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を日本が提案するように求める*2「Yes! キャンペーン」キャラバン隊が、昨年11月24日～27日の4日間大阪を訪れました。43ある大阪府の自治体で既に賛同署名をしているのは、11自治体(2009年11月18日現在)。大阪YMCAもこのキャンペーンに協力し、4日間にわたりキャラバン隊に同行、大阪府下28自治体を訪問し、賛同署名を求めました。またキャラバン初日には、Yes! キャンペーン実行委員の3名を大阪YMCA土佐堀会館に招き、大阪YMCAの会員、ユースボランティア、スタッフと共に平和について考える学びのときを持ちました。

政治やイデオロギーなどは関係なく、核兵器の本当の恐ろしさを知る一ヒバクシャとして、また核兵器のない明るい未来を望む一地球市民として活動に取り組むヒバクシャの磯 博夫さんと八木義彦さん。「今が、我々ヒバクシャにとって核兵器廃絶を実現する最後のチャンス。唯一の被爆国である日本が、ヒロシマ・ナガサキ議定書を世界に提案するために恥ずかしくない自治体の署名数を集めたいのじゃ」と広島弁で熱く語る二人の顔には、固い決意と希望に満ちた笑顔がありました。

全国で1772ある自治体のうち賛同署名している自治体は544カ所(2009年11月27日現在)。今後も全国のYMCAは、全国署名活動をしているYes! キャンペーンに協力していきます。

大阪YMCAも「生命を尊重し、平和で公正な社会にYes!」と訴えていきたいと考えています。(田宮芳光・統括本部スタッフ)

*1「ヒロシマ・ナガサキ議定書」…世界の3241都市が加盟する平和市長会議が2008年に発表。2020年までに、核兵器廃絶に向け各国政府等が遵守すべきプロセスなどを定めた議定書。

*2「Yes! キャンペーン」…広島・長崎・平和市長会議・日本YMCA同盟・広島生活協同組合の後援で平和市長会議と提携して活動している広島市の市民団体。

※写真右から、Yes! キャンペーン実行委員 八木義彦さん、磯 博夫さん



◆◆プログラム報告◆◆

「教職者の集い」

講師 工藤 信夫氏

南YMCAでは、「教職者の集い」を2009年11月10日に行い、教派を超えた諸教会教職者の学びと交わりの場を持ちました。講師に元藤川キリスト教病院精神科医長で大学でも教鞭を執っておられる工藤信夫さんを迎え、「これからのキリスト教—精神科医の視点—というテーマで、「心の病が多い時代に教会が求められているのは傷つくことや失敗を恐れず人を理解することではないか」という提言をいただきました。

参加者は教職者など29名でした。教派を超えて多くの方にお集まりいただき、お茶を飲みながらの和やかな雰囲気の中で、ピアノ演奏を交えながら活発な意見交換がなされるなど豊かな学びと交わりのときを持つことができましたことを感謝いたします。(貝 容子・高等学校スタッフ)



土佐堀YMCA

祈禱週・クリスマス献金キックオフのつどい

土佐堀YMCAでは、世界YMCA/YWCA祈禱週にあわせて、2009年11月9日に、音楽礼拝とワークショップで構成した「祈禱週・クリスマス献金キックオフのつどい」を行いました。大阪教会の聖歌隊が歌う讃美歌を聴き、今年度の祈禱週テーマである「いま、地球市民として生きるために」にちなんだ岡村恒牧師のお話に皆で聞き入りました。そして、今年度のクリスマス献金の初穂となる献金が捧げられ、その意味と使途について、わかりやすく説明がなされました。



ワークショップでは、表現・コミュニケーション学科卒業生とスタッフがファシリテーターとなり、約70名の参加者とともに「世界がもし100人の村だったら」を実施しました。ファシリテーターの2名は今夏、YMCA東山荘で行われた地球市民研修の参加者です。ご存知の方も多いと思いますが、この「世界が…」は、世界中の富の偏在をわかりやすく表した内容で、このワークショップでは、クッキーとお茶を分け合うことで、今の世界の状況を実感することができました。

- 協会員 新規会員
- (土佐堀) 生雲文枝/藤岡美里(東) 中西真二(桃の里) 井阪周平/中田 茜/東 紘史
- 継続会員
- (土佐堀) 渡辺宏子(南) 小島彰敏/中西恭子/林富美子/森川美代子/山田浩平(徳島) 中平秀徳(2009年11月30日現在)
- 継続賛助会員
- 有田社社形写真場/パナソニック株式会社/リコー関西株式会社/レックス工業株式会社(2009年11月30日現在)